令和３年度第１回三条市教育事務点検評価委員会会議録

１　開会宣言　　令和３年７月５日（月）　午後１時30分

２　場　　所　　三条市役所栄庁舎２階201会議室

３　出 席 者　　雲尾委員長、星野委員、山際委員

４　説明のための出席者

長谷川教育長、栗林教育部長、野水教育総務課長、平岡子育て支援課長、熊倉小中一貫教育推進課長、星教育センター長、坂井教育総務課課長補佐、佐藤教育総務課庶務係長

５　傍 聴 人　　なし

６　会議次第

(1) 開会

(2) 教育長挨拶

(3) 自己紹介

(4) 委員長の互選

(5) 職務代理者の指名

(6) 議事

ア　教育に関する事務の点検及び評価について

イ　令和２年度教育に関する事務の事後評価シートについて

(7) 次回教育事務点検評価委員会の日程について

(8) 閉会

７　会議の経過及び結果

(4) 委員長の互選

（野水教育総務課長）

委員長は、三条市教育事務点検評価委員会要綱第５条の規定によりまして、委員の互選により定めることとされております。

適任の方がいらっしゃいましたら御推薦をお願いしたいと存じます。いかがでございましょうか。

（星野委員）

雲尾委員が適任だと思います。

（野水教育総務課長）

今ほど雲尾委員を推薦する声がありましたが、委員長として雲尾委員に決定することに御異議ありませんでしょうか。

御異議ありませんので、委員長は雲尾委員に決定いたしました。

それでは、これ以降の進行につきましては雲尾委員長からお願いいたします。

---

(5) 職務代理者の指名

(雲尾委員長)

それでは、次第に沿って進めさせていただきます。

職務代理者の指名について、要綱の第５条第３項で委員長があらかじめ指名することとなっておりますので、私から指名させていただきます。

職務代理者は、星野委員にお願いしたいと思います。

〔星野委員同意により、星野委員に決定〕

---

(6) 議事

ア　教育に関する事務の点検及び評価について

・野水教育総務課長が説明

(雲尾委員長)

ただいまの件につきまして御質問、御意見がありましたらお願いいたします。

特になければ次に進みます。

イ　令和２年度教育に関する事務の事後評価シートについて

・小中一貫教育推進課所管分について、熊倉小中一貫教育推進課長、星教育センター長が説明

(雲尾委員長)

小中一貫教育推進課所管部分につきまして、御意見、御質問がありましたらお願いいたします。

１－（１）「学校運営改善システムの構築」につきましていかがでしょうか。

(星野委員)

３点お願いいたします。

１点目は、２ページの第一指標の指標に対する評価の記述ですが、上から３行目の「２年度から開始した三条市授業スタンダード」について、１ページの今後の方針のところの上から３行目を見ると、今年度が導入２年目となっているので、運用開始が令和２年度からなのか令和元年度からなのかが読み取りづらいことです。

２点目は、同じ指標に対する評価の上から２行目で「強い肯定的評価をしている教職員が増えている」という部分について、強い肯定的評価とは具体的にどういう評価をしたの

か教えてください。

３点目ですが、２ページの第二指標の指標に対する評価の記述の中の「LGWAN」についてですが、注記などが必要だと思いました。

(熊倉小中一貫教育推進課長)

１点目の三条市授業スタンダードの運用開始年度につきましては、記載誤りであります。令和元年度に策定をし、令和２年度に本格実施、本格運用であるため、記載の修正をいたします。

２点目の強い肯定的評価とは具体的どのような評価かについてですが、教職員に対するアンケートで「あなたは９年間の学習のつながりを意識して授業を行っていますか」という問いに対して４段階の評価を選択してもらう中で、最も強い肯定である「かなり意識して授業を行っている」と回答した職員が令和元年度の調査と比べて５ポイント程度増えていたことから、「強い肯定的評価をしている教職員が増えている」としたのですが、もっと分かりやすい表現となるよう検討いたします。

３点目について、LGWAN 環境というセキュリティが強化された環境下で校務支援システムを運用しているということが伝えたい部分のため、注記も含め記載内容については検討いたします。

(雲尾委員長)

三条市授業スタンダードの導入については２年目と３年目のどちらになるのですか。

(熊倉小中一貫教育推進課長)

導入２年目ではなく、導入３年目に訂正をさせてください。

(山際委員)

総合評価での記載の中で小中一貫教育を軸とした教育システムが教職員に浸透したとありますが、その理由を教えてください。

また、施策の基本方針での記載で情報管理の徹底を図るとありますが、校務支援システムの運営会社が来庁できず研修の機会を十分提供できなかったにもかかわらず、評価が成果目標どおりのＢ評価ですが、これでよいでしょうか。

(熊倉小中一貫教育推進課長)

三条市が小中一貫教育に取り組み始めて 13 年目になります。また、学園体制での取組は５年目になります。

取組を重ねるごとに各学園のまとまりが一層高まり、学園内の教員同士の交流が一層増えてきていると考えています。

(山際委員)

意見交換の場があるということでしょうか。

（熊倉小中一貫教育推進課長）

そういう場はあります。学園ごとに何度か集まって意見交換や研修をする場を設けていますので、そういった中で小中一貫教育という取組、システムについての理解は年々深まっていると考えています。

校務支援システムについては、例年ですと、例えば通知表の作成や、学年末でのデータの移行方法について、東京都にある運営会社の社員が講師となり、教育センターで教職員向けの研修を定期的にしていました。それが昨年度は、新型コロナウイルスによる影響で講師である社員の移動が制限されたため、リモート等を活用しながら操作方法を学んだり、校務支援システムの操作に慣れてきた教職員から教えてもらったり、また当課の指導主事がフォローに当たるなどしました。

（山際委員）

来庁できなかったがリモートなどで情報交換をしたということかと思いますが、評価が成果目標どおりのＢ評価とするのであれば、記載内容を検討する必要があると思います。

（熊倉小中一貫教育推進課長）

Ｂ評価と整合が取れるように、記載内容を見直したいと思います。

（山際委員）

質問ですが、三条市授業スタンダードとはどのようなものでしょうか。

（熊倉小中一貫教育推進課長）

三条市授業スタンダードにつきましては、昨年度の春から本格的に導入していますが、各教職員向けにどのような授業の構成をするかというものを示したものです。導入にスタートラーニングというものを取り入れて、どのような授業の入り方が子供たちにとって円滑に進むのか、どのような課題であれば子供たちが 45 分間なり 50 分間なりの集中力を維持できるかなど、振り返りやまとめの時間を含め１時間単位の授業の進め方を示しています。

（雲尾委員長）

総合評価には、システム会社が来庁できず研修機会を提供できなかったということが記載してあるだけのため、Ｂ評価との整合が取れるような記載をお願いします。

また、今後の推進方法の最初の段落について、この項目は「学校運営改善システムの構築」であるため、研修などを学校運営改善システムに含んでよいかの判断が必要だと思います。

２ページ目、第一指標の主な構成事業の内容の２行目に「小中一貫教育の意識を教職員が分析し」とありますが、意識を分析しているわけではないと思いますので削除してください。

それから、全体的に言えることですが、２ページでいうと、第二指標の参考値である平成30年度の数値について、32%ではなく32.0%として、小数点以下を必ず入れるというところを統一していただきたいと思います。

ほかに１－（１）はよろしいですか。

では、１－（２）「開かれた学校づくり」についてはいかがでしょうか。

(星野委員)

３点お願いいたします。

１点目は、３ページの今後の推進方法の下から２行目に「児童生徒に活動のねらいや目的を伝える等の働きかけの工夫をしていく」とありますが、４ページにある第二指標の実績値を見れば、目標値を十分達成していることから、「工夫をしていく」を「更に継続していく」としてはどうでしょうか。

２点目は、同じく今後の推進方法についてですが、令和２年度に全市にコミュニティ・スクールが導入され、各学校で地域住民や保護者と連携した学校づくりをしたということでありますので、コミュニティ・スクールという文言が今後の方針の文面に入ることで、終期の令和４年度に向けた展望などが意識された表記が伝わるのではないかと思ったのですが、いかがでしょうか。

３点目ですが、４ページの第二指標の指標に対する評価についてですが、冒頭の「教職員の意識は80%を大きく超えており」を「教職員の90%近くが、地域と触れあう」と記載してはどうでしょうか。

(星教育センター長)

１点目にありました今後の推進方法の記載につきましては、「更に継続していく」とさせていただきます。

２点目にお話しいただきました今後の推進方法の中にコミュニティ・スクールの文言を入れることについて、確かに今後の推進方法の中でどのように進めていくかということを示したほうがよいと思いますので、記載内容について検討いたします。

３点目につきまして、「80%を大きく超えており」のところを「90%近く」としたほうが目標値に向かっているという印象を受けるということであれば、そのように変更したいと思います。

(雲尾委員長)

４ページの第二指標の指標に対する評価についてですが、「教職員の意識は」とありますが、「教職員の肯定的評価は」という文言のほうがよいと思います。

また、そこの文章の後の「地域とふれ合う」は平仮名になっていますが、指標説明のほうだと「触れ合う」が漢字になっていますので、どちらかに統一した方がよいと思います。

（星教育センター長）

「触れ合う」は漢字で統一させていただきます。

（雲尾委員長）

分かりました。

また、３ページの総合評価の最後の行に「地域に開かれた学校の推進をしている」とありますが、「地域に開かれた学校づくりの推進をしている」のほうがよいと思います。

（星野委員）

３ページの総合評価の下から２行目に「数値の落ち込みはあまり見られず」とありますが、どの数値を指すものでしょうか。

（星教育センター長）

こちらの数値の意味につきましては、いわゆる感染症の影響があった中で交流活動の回数自体は減りましたが、それに対して子供たちの肯定評価または教職員、保護者の皆さんの肯定評価についてはそれぞれそれほど落ち込みは見られなかったことから、このような表記といたしました。つまり、コロナウイルス感染症の拡大による交流活動減の数ほど影響はなかったということを表現したものです。

（雲尾委員長）

５、６ページの１－（３）「教職員の資質や指導力の向上」についてですが、第一指標のところで予定 33 講座のうち 28 講座を実施ということであれば５講座実施できなかったと思いますが、なぜ実施できなかったかの記述がありません。記述の必要はないとしてよいですか。

（星教育センター長）

新型コロナウイルス感染症の影響によるものだと思いますが、実施できなかった理由を改めて確認した上で、記述の必要性について判断したいと思います。

（山際委員）

第二指標の「外部指導者を招いた研修回数」について、研修した回数が年間３回以上の学校は何校ありますか。24 校ということでよいですか。

（星教育センター長）

はい、28 校中 24 校が３回以上実施できました。

（星野委員）

６ページの第一指標ですが、初の試みである紙面研修やリモート研修について、内訳として何講座程度あったのかを数値で示してもよいかと思いました。

以上です。

（星教育センター長）

紙面研修やリモート研修について講座数を確認し、記述できるところはしたいと思います。

(雲尾委員長)

では進めます。

１－（４）「確かな学力の育成」について御意見等をお願いします。

(星野委員)

７ページの総合評価についてですが、読ませていただいた印象では、第一指標と第二指標の成果だけが書かれていて、最後に２行だけ方向性が記述されているというように受け止めたのですが、例えば第一指標では小学校６年生の全国標準学力検査の偏差値を分析しており、第二指標では中学校３年生の偏差値を分析しています。それぞれ目標値の設定は違っているとはいえ、この分析値をどのように受け止めて今後につなげていくかということを記述することで、総合評価の内容も伝わりやすくなると感じました。

(星教育センター長)

総合評価の部分につきましては、どのような学力向上の手だてが打たれたのかを記述したいと考えております。

別の資料になりますが、小学生では「授業が楽しいと感じる」か、中学生では「進んで勉強をしている」かを令和２年度に調査しています。その結果によりますと、小中学生ともに令和元年度に比べて「楽しいと感じている」や「進んで勉強している」という値が上昇しております。このことから、コロナウイルス感染症の中で行事や交流活動は非常に制限されたのですが、各学校の授業は非常に丁寧にされていたということが言えると思いますので、そこも踏まえて記述できるように準備したいと思います。

(雲尾委員長)

関連での意見ですが、第一指標、第二指標とも「主な構成事務事業」の記述で「結果を分析して指導に生かすとともに、教育研修を行い」とあるため、分析結果を総合評価に記述する必要があります。それが指導力の問題なのか、地域性の問題なのか、そのような記述がないため、総合評価の内容が少なくなってしまったのだと思います。

また、第一指標は小学６年生のため「児童生徒」ではなく「児童」だけ、第二指標は中学３年生のため生徒だけの表記でいいと思いますし、生かすという字の表記が「活」と「生」と両方あります。また、「教員」と「教職員」も両方あるので統一してください。

数値の表記について、表中も文章の中も小数点第１位までしてください。例えば「50 以上」という表記ではなく「50.０以上」という表記でお願いします。

では、１－（５）「豊かな心を育む心の教育と体験活動の充実」についていかがでしょうか。

基本方針のほうでは「指標となる小６、中１だけを対象として」hyper-QU を実施しているとしていますが、指標は第一指標、第二指標ともに中学校１年生のみを対象としています。ここはどう説明しますか。

(熊倉小中一貫教育推進課長)

小中一貫教育を進めるに当たって、小学校６年生と中学校１年生のつなぎがスムーズにいくようにというところがありますので、小学校６年生と中学校１年生については hyper-QU を実施しました。

指標としては中学校１年生のものを使いますが、小学校６年生の数値等も比較ができるようにということで、この２つの学年について同じものを使用しているということと捉えています。

(雲尾委員長)

施策の基本方針の中で「指標となる小６、中１だけを対象として実施している」と記載されていると読む方としては分からないと思います。「指標となる」という記載があると、第一指標、第二指標とも小学校６年生の指標がないため、今の説明を含んで補ってもらうか「指標となる」の表記を削除する必要があります。

また、指標についてですが、全国平均値との差という指標名になっていて、指標説明の中でも「その差を指標に設定し」とありますが、全国平均値との差を指標としてはいないので、修正をお願いします。

(熊倉小中一貫教育推進課長)

分かりました。

(星野委員)

２点お願いいたします。

１点目は、９ページの総合評価の文言の下から２行目のところ、「ソーシャルスキルの数値は全国平均を上回り」とありますが、指標のほうから見ると、関わりのスキルは目標値には達成しませんでした。これは２つのスキルの実績値の平均を取ると 53.0 を超えたという読み取りでよいのかということを確認させてください。

２点目は、私の感想ですけれども、総合評価の中で不登校数が増加したことを受けて、その下の今後の推進方法の中では、下段の部分、個と集団の関係について、個性の伸長であるとか社会性の育成であるとかは本当に大事な部分だと思い、そこにポートフォリオのシステムや Q-U の心理検査を有機的に関わらせて機能していくということでありますが、その部分は本当に大事なことだなと受け止めました。

３点目は、指標の目標値の 53.0 という数値は、どのような根拠から出たものなのか教えていただければと思います。

（熊倉小中一貫教育推進課長）

総合評価のところで「数値は全国平均を上回り」ということについては、２つの指標を平均しての数値が上回っているということです。しかし、やはり分かりにくいところもありますので表現を考えたいと思います。

目標の数値がなぜ 53.0 かについてですが、その数値の設定に私が関与していないこともあり、よく分からない部分もありますが、全国平均を 50.0 としたときに、小中一貫教育を進めている中で、つなぎをスムーズにして、よりよい学校生活をということを考えたときに、少し上の部分を目指して到達できるようにしていきたいというところで、平均よりも少し上の 53.0 という数値を目指すということで設定されているのではないかと考えています。

（雲尾委員長）

では、１－（６）「健やかな体を育む健康教育、体力向上の取組の推進」につきましてはいかがでしょうか。

（星野委員）

11 ページの今後の推進方法の中で３点お願いします。

まず１点目は、下から３行目のところ、上段が食育についての記述でしたが、ここで「これまでの全国体力」となると、上段とのつながりがしっくりこないので、ここには「また、体力づくりでは」の文言が入るとよいと思います。

２点目は、下から２行目のところの後半で「長座体前屈等の柔軟性や球技を向上させる」とあり、「球技を向上させる」の意味がよく分かりません。恐らく球技ならではの運動特性のことを伝えたいのではないかなと思いますが、記述の修正をお願いします。

３点目は、２点目にも関連しますが「向上させる取組を各校で取り入れていく」という記述でよいかと思います。その後に続く「目標達成に向かっていく」という記述は削除してもよいと考えました。

（熊倉小中一貫教育推進課長）

見直しをかけていきたいと思います。球技を向上させるというのは、ボール投げのことと捉えています。記述については検討させていただきます。

（山際委員）

総合評価の記述について「校内で調理実習を行うことができなかった影響もあり、前年度より回数が 38 回減少した。しかし、その中でも実施方法等を工夫して、計 146 回実施した。」とありますが意味が伝わりづらいと思います。

（熊倉小中一貫教育推進課長）

実施回数の数え方についてよく分かるように、記述内容を検討したいと思います。

(雲尾委員長)

では、２－（１）「ICT、グローバル化に対応した教育の推進」につきましていかがでしょうか。

(星野委員)

３点お願いいたします。

１点目は、14ページの第一指標に対する評価のところですが、指標の目標値等のところを見ますと、例えば30年度68.2、令和元年度66.8、令和２年度が62.8とよく分析されていますが、年々ポイントが下がってきているというところから見ると、恐らく何か要因があるのだろうと思います。その要因がもし分かれば教えていただきたいということと、その継続している要因、課題が見られるのであれば、13ページの総合評価あるいは今後の推進方法のところでも触れる必要があると思いました。

２点目は、今ほどの指標に対する評価の２行目について「児童」の後に「生徒」の記述が必要ではないかということです。

３点目は、13ページの今後の推進方法の一番下の行ですが、「ALT等が授業しやすい環境」について、これは具体的にどういうことなのかと思いました。私は、ICTのさらなる活用を図っていくのかなとも思ったのですが、どういうことなのか教えていただきたいということと、その上の２行が、行政側が指導するということではなく、授業を実施する側がすることを書いてあるように私は感じたため、こういう作業的なことは記述しなくてもよいのかなと思いましたが、どうでしょうか。

(星教育センター長)

１点目の第一指標に対する評価ついてですが、ICTについてどのような活用をされたのかについて、もう少しヒアリングをしたいと思います。指標に対する評価の記述の中で、児童生徒の意見や考えをリアルタイムで効果的にフィードバックすることが難しくなるとありますが、これはコンピュータを使って、そしてそれをプロジェクターを通して映すということを同時進行することが難しかったという点があろうかと思います。この点も含めまして、具体的な状況をもう一度確認したいと思います。

なお、令和２年度末になりますとタブレット端末が児童生徒一人につき一台入ってきましたので、その前後で状況は変わっていると考えています。星野委員が指摘したように実績値は下がっていますが、その要因につきましては、もう一回確認したいと思います。

(熊倉小中一貫教育推進課長)

御指摘のとおり、前半の部分は担任や授業をする側と受け止められますので、そうすると、この「また」がおかしな記述になります。もう一回内容を十分確認をして、内容について改めたいと思います。

（雲尾委員長）

今後の推進方法の記述についてですが、第一指標、第二指標や総合評価がなくても成り立つ文章で書かれていることから、関連性がないように感じられるものになっています。そういうところが分かりにくいと感じる部分でもあるため、そこを踏まえて書き足してもらえるといいかなと思います。

（熊倉小中一貫教育推進課長）

はい、分かりました。

（山際委員）

第二指標の説明ですが、インタラックの説明など、分かりづらい言葉の説明があると助かります。

（熊倉小中一貫教育推進課長）

分かりやすい言葉にするよう、考えたいと思います。

（雲尾委員長）

では、２－（２）「市民性を高める教育の推進」につきましていかがでしょうか。

（山際委員）

総合評価の最後の行について、「延べ 123 人の教員が参加した」とありますが、参加したのがどのプログラムなのか、どの講演会なのか、それとも全部なのかが分かりません。

（星教育センター長）

123 人の教員の参加につきましては、防災教育の研修会に参加した総人数です。第一指標、第二指標の中で防災教育の研修会について触れていないため、唐突に出てきたという印象があるかと思いますので、記述についてどのようにするか検討したいと思います。

（雲尾委員長）

総合評価の最初の行について、参加者のアンケートということですが何の参加者か分からないということと、内容を分かりやすくするためには、項目ごとに改行することが必要であり、防災教育の内容ところは改行してもらわないと分からないだろうと思います。

また、総合評価の４行目に「科学に興味関心のある児童が内容を選択して参加できることが要因」とありますが、もともと自由参加であり、科学に興味関心のある子たちが参加していると思いますので、肯定的評価も高くなるのは当然であろうことから、記述はしない方がよいように思います。

第二指標に対する評価について、「肯定的評価が１％上がった」とありますが、どの数値を比較したのでしょうか。

（星教育センター長）

これは、実績値が 92.9 から 93.5 に上がったと捉えまして、上昇値としては 0.6 となり

ますので修正したいと思います。

（雲尾委員長）

四捨五入してしまったということですね。分かりました。

（星野委員）

今のことと関わるかもしれませんが、今ほどの実績値のところ、第二指標は令和２年度で93.5％ですが、この指標に対する評価の文言を読んでいくと、小学生対象が99％で、中学生対象が93％とあります。単純に平均しても93.5％にはならないと思いますが、どのようにして実績値が93.5％となったのか教えてください。

（星教育センター長）

平均としての数値であると思いますが、どのように算定したのか確認したいと思います。

（雲尾委員長）

そのほかよろしいでしょうか。

それでは、２－（３）「社会で自立するための特別支援教育の充実」についてはいかがでしょうか。

（星野委員）

２点お願いします。

１点目は、17ページの総合評価についてですが、第一指標、第二指標の評価を見させていただいて、私は、総合評価はＡでよいのではないかと思いました。

第一指標は設定上100％以上あり得ないことから、合理的配慮の記載内容の面から、今後の課題がまだ残るというふうに読み取りました。しかしながら、第二指標の達成率が111％ということであれば、Ａ評価でよいと思いました。評価はＡとして、総合評価の記述あるいは今後の推進方法の記述の中にこのような課題があるというようなことを触れておくというのはどうでしょうか。

２点目は、私の不勉強だと思いますが、いろいろなところに支援、配慮という言葉が出てきます。文科省のホームページあるいは学習指導要領等を見て私も勉強しましたが、支援や配慮という言葉の正しい使い方について、もう一度検討していただきたいと思います。

例えば、「特別な教育的配慮を要する児童生徒」という記述であったり、「特別な教育的支援を要する児童生徒」という記述であったりなど、同じことを言っているのに微妙に違う記述となっている部分がありますので、確認の上、統一していただければと思います。

（熊倉小中一貫教育推進課長）

評価Ａでよいのではないかとのことですが、検討させていただきたいと思います。

また、支援、配慮の使い方につきましても細かいところをよく見直しをしたいと思います。

(山際委員)

第二指標に対する評価の中に「WISC-Ⅳ分析」とありますが、普通の方は言葉の意味が分からないと思います。分かりやすい言葉に直せるのであればお願いします。

(熊倉小中一貫教育推進課長)

分かりました。

(雲尾委員長)

総合評価の最後の行ですが、「保護者及び児童生徒のニーズ」よりも「児童生徒及び保護者のニーズ」としたほうがよいと思います。実際は保護者から優先的にお話を聞いているとは思いますが、やはり児童生徒が先のほうがいいだろうと思います。

また、「支援に資することができた」とありますが、第二指標に対する評価では「指導力の向上を図ることができた」とあります。研修をして「指導力の向上を図る」ということなので、向上したかどうかはさておき、図ることはできるわけです。つまり、この総合評価の記述も「教員の指導力の向上を図る」ことはよいと思いますが「支援に資すること」ができたという証明は、どこからできますか。

(熊倉小中一貫教育推進課長)

よく言葉を吟味しないで使っていると思いますので、検討させていただきます。

(雲尾委員長)

お願いします。

２－（３）はよろしいでしょうか。

では、２－（４）「学校外における学びの機会の充実」についてはいかがでしょうか。

(星野委員)

19 ページの今後の推進方法のところの記載です。上から４行目に「日々把握」とありますが、「日々」よりも「毎回」という記述のほうがよいと思います。

また、「土曜マルシェ」や「日曜マルシェ」という文言であったのが、19 ページでは「土曜日」「日曜日」という記述となっています。私は内容が分かるからよいのですが、普通の方が見ると「三条マルシェ」という言葉もありますので分かりづらいと思います。「土曜学びのマルシェ」や「日曜学びのマルシェ」のほうがよいのかなと思いました。

(星教育センター長)

「日々」ではなくて「毎回」という記述にしたいと思いますし、「土曜学びのマルシェ」や「日曜学びのマルシェ」とした方が分かりやすいと思いますので、そのように記述を統一したいと思います。

（山際委員）

第二指標に対する評価では、「日曜学びのマルシェは募集人数をほぼ達成した」とあり、「土曜学びのマルシェは達成していない」と書かれていますが、19 ページの今後の方針では日曜学びのマルシェを終了し、土曜学びのマルシェだけにすると書いてあります。日曜学びのマルシェの方が募集人員を達成しているのになぜそうなったのか、その説明の記述が必要だと思います。

（星教育センター長）

日曜学びマルシェにつきましては、今まで民間業者に委託しておりましたが、議会等で民間業者への委託事業でいいのかについて指摘があった中で検討し、今年度から民間業者に委託しないこととしました。

その内容をどのように記述するかについては、これから検討させていただきます。

（雲尾委員長）

指標説明について、第一指標では「児童生徒の学習に対する充実度を評価する」とありますが、学習に対する充実度という文言が分かりにくいと思います。

また、第二指標でも「学習意欲の高い児童生徒への十分な学習の場を提供しているかの評価」とありますが、これについても学習意欲の高い児童生徒の母数が分からない中で、学びのマルシェに来ているか来ていないかで、目標達成率を算定するのはどうかと思います。そもそも指標説明にある 300 人以上が受講という設定は、三条市にはそれだけしか学習意欲が高い子はいないということにもなってしまうため、そのあたりの説明も分かりにくくなります。

今後の推進方法の中ほどに児童生徒の学習意欲の向上につながるような支援をしていくとありますが、第一指標の説明と矛盾してくる部分もあるため、総合的に整理していただきたいと思います。

・子育て支援課所管分について、平岡子育て支援課長が説明

（雲尾委員長）

では、３－（１）「幼児教育内容の充実」につきましていかがでしょうか。

（山際委員）

コーディネーターが各園に何人いるかなどの表記がないので、全体の人数も含め、各園にどのくらいいるのかの表記をお願いします。

（平岡子育て支援課長）

手元に資料がないため正確な人数はわかりませんが、実はコーディネーターというのは各保育所、園の保育士が研修を受けた上でコーディネーターという立場になってもらって

います。全体としては確か60人余りが既に研修を受けて、コーディネーターという役割を担っていたかと思います。

（山際委員）

各園に１人はいるということでしょうか。

（平岡子育て支援課長）

はい、そうです。

コーディネーターの選任状況が分かるように書き方を工夫したいと思います。

（星野委員）

２点お願いします。

１点目は、総合評価の④について、評価の公表についての記述があります。どのような理由かは分かりませんが、子供たちは私立であろうが公立であろうが入学するので、ぜひとも全施設が評価の公表をしてもらいたいと思います。公表しない理由があれば教えください。

２点目は、22ページの第二指標の説明の中で、支援や配慮を必要とする子供の特性に早期に気付く割合を89.0％まで向上させるというものがあります。この気づくということは、園として気づくということでしょうか。令和２年度実績値の83.9％の分母と分子は何かということを教えていただきたいと思います。

（平岡子育て支援課長）

まず、21ページの総合評価の下から３行目の「隔年で公表している施設などもあることから」のところですが、隔年という取扱いをしているところについては、その理由については確認しておりませんが、私どもといたしましては、毎年公表していただけるように、今後もお願いしてまいりたいと考えております。

また、83.9％の分母と分子についてですが、分母としては年中児発達参観の段階で要観察、要支援ということで各専門職が入って一定の判断を行った子どもの総数を分母としています。分子としては、この子は支援が必要ではないかと事前に気づいていた子供の数としています。事前の気づきが分子、年中児発達参観の際に要観察、要支援とした子供の数が分母ということで算定しています。

（山際委員）

第一指標の説明で「年少児：20分以上、年中児：25分以上」とありますが、何か基準があるのですか。

（平岡子育て支援課長）

この時間については、望ましい時間数として国、厚労省が示しているものをそのまま準用しています。基本的には、国のほうで様々なケースを踏まえて、このくらいは最低限必

要な運動量だろうということで割り出した時間数だと認識しています。

指標説明の中で、基準が何に基づいているかを記述したいと思います。

(雲尾委員長)

他はよろしいですか。

では、３－（２）「幼保小連携の推進」につきましていかがでしょうか。

先ほど説明の中で、平岡子育て支援課長から総合評価の②の文章を書き直すという話がありましたが、その他についてはどうでしょうか。

無いようですので、次に３－（３）「家庭への支援の充実」につきましていかがでしょうか。

(星野委員)

質問や意見ではなく私の感想ということでお聞きいただきたいと思いますが、26ページの第二指標が相談件数を指標に設定し、増やすことを目標としています。相談件数が増えるということは、子育て支援の専門機関としての機能が身近なものとして発揮されていると言えると思いますが、それとは別に、マイナスのイメージもあると思います。そういったことで指標の設定は難しいという感想を持ちました。

(平岡子育て支援課長)

今に始まったことではありませんが、核家族化が進んできている中で、例えば相談できる相手が身近にいないというようなケースはだんだん増えてくるのだろうと思います。そうした中で、まずは本当にささいなことであったとしても気軽に相談できる場が身近に必要であり、それが子育て拠点施設であり、子育て支援センターであればいいと思っています。

(山際委員)

第二指標の対する評価の記述について、「Ｒ元年度」や「Ｒ２年度」とありますが「令和元年度」「令和２年度」の記述の方がよいと思います。

(平岡子育て支援課長)

「Ｒ」ではなく「令和」に統一したいと思います。

(雲尾委員長)

行政評価ですので、相談件数を増やすことを目標値に設定した以上は、それに従って評価していくことになりますが、第二指標の令和２年度の達成率が65.5%であり、第一指標の令和２年度の達成率は101.5%となります。単純に数字だけでいうと65.5%と101.5%の２つの指標の数字を平均すると八十数%になりますが、評価は「Ｂ」ではなくて「Ｃ」としなくてよいでしょうか。皆さんはどのようにお考えでしょうか。

［各委員から、評価はこのままでよいとの意見あり］

（雲尾委員長）

では、評価はこのまま「Ｂ」とします。

（星野委員）

細かいことですが、26 ページの第一指標に対する評価の記述のところで、冒頭に「小学校就学時及び中学校入学時講座」とありますが、総合評価のところにある正しい文言を入れたほうがよいと思います。

また、３行目に「睡眠の大切さについて認識を深めてもらうため」昨年度から眠育の内容を講座に追加したとのことですが、実施したのが小学校だけであれば、そのような文言を入れたほうがよいと思います。

（平岡子育て支援課長）

先ほどの私の説明が誤って伝わっているように思いましたが、眠育の取組につきましては、当市は昨年度からではなく、それ以前から実施しております。それは言い直させていただきたいと思います。昨年度から始めたというのは、この眠育の取組を就学時健診のときの講座に取入れたということです。そのことにより、講座の内容が役に立ったという評価の割合が上がったということです。

また、星野委員がおっしゃるとおり、中学校入学時にはこの講座は行っていません。小学校就学時に睡眠の重要性を認識してもらおうということで行っております。

（雲尾委員長）

それでは、その部分をきちんと整えていただくということでお願いします。

・教育総務課の所管分について、野水教育総務課長が説明

（雲尾委員長）

では、ただいまの教育総務課所管部分につきまして質問や意見等ありましたらお願いします。

（山際委員）

タブレット端末を児童生徒に一人一台整備したにもかかわらず、第一指標の説明では、目標は３クラスに１クラス分のタブレット端末の配置率としています。そして、令和６年度までに割合 100％を目指すとありますが、どのような理由で一人一台の整備となったのでしょうか。

（野水教育総務課長）

当初、国のほうで一人一台という方針が示される以前は、第一指標のとおり３クラスに

１クラス分のタブレット端末の整備方針で５年計画でしたが、昨年度の途中から一人一台端末の整備という方針が示され、またそれに必要な予算措置も国のほうでなされたことを受けて、三条市でも補正予算を組んで整備を進めた結果、昨年度内で一気に一人一台端末の配備となったものです。

（山際委員）

今後の推進方法等の中の記述で学校内の ICT 環境の拡充とありますが、タブレット端末の活用は学校内だけなのでしょうか。

（野水教育総務課長）

今後、端末を活用した学習内容あるいは活用方法のソフト面については、教育センターを中心に考えています。私ども教育総務課といたしましては、その動きと合わせまして、それに必要な環境を順次整えていく、これが責務と考えております。

そうした中で、今回「学校内の」としたことについては、現在はいわゆる普通教室についてはネットワーク環境を整え終わったところであり、逆に言えば特別教室にはまだネットワークの環境が整っていないことがあります。学校内での授業に ICT を活用した端末で授業を行っていく場合に、普通教室以外での使用状況、在り方を当然現場と教育センターのほうで考えていくと思いますので、その中で普通教室以外でネットワーク環境が必要なところがあれば、その整備が必要だろうと考えています。

順番としては、学校での活用を優先した中でこのような表記とさせていただきましたが、今後の家庭学習での活用ということも視野に入れています。

（雲尾委員長）

教育総務課としては具体の内容の記述をしにくいのかもしれませんが、今後の推進方法の１行目で「長期の臨時休校等が生じても、児童生徒の学びを保障できるよう、遠隔授業や平時に必要な環境整備を検討する」というところがありますので、この部分に家庭学習の記述内容を入れられないでしょうか。例えば、学校に子供たちがいない状況でも授業が受けられるような環境整備を検討するなどしてはいかがでしょうか。

（野水教育総務課長）

私どもの課のシートの書きぶりでは、少し難しいところもありますが、内容を検討し、加えるべきものは加えていきたいと思います。

（星野委員）

１点お願いします。

27 ページの今後の推進方法のところ、今ほどの話とも重複しますが、私も市内の全児童生徒にタブレット端末が配備されたということを受けて、これからますます IT 化が進んでいく世の中になっていくと思っています。これは教育総務課ではなく小中一貫教育推進

課が担当する内容かもしれませんが、タブレット端末の活用について、大規模災害発生時や今の状況のような感染症対策時ももちろんですが、平常時の活用についても検討していただきたいと思います。例えば学園間や学園の小中学校間でズームを活用したやり取りをするであるとか、あるいはまた幼保小でズーム機能などを活用して、学校や園の紹介であるとか、子供の遊びの紹介であるとか、あるいはお兄さん、お姉さんたちの姿の紹介ということもできるのではないかと思います。非常時に限らず、平常時でも使えるものになってもらいたいという願いも込めて、この推進方法の上の２段というのは非常に大事な文言だというふうに思いますし、委員長がおっしゃったように、具体な内容というのは書きにくいのかもしれませんが、今後は、各学校内だけではなく学園内での活用も含めて検討していただければと思います。

(野水教育総務課長)

ただ今の御指摘は、いわゆる縦割り的に教育委員会の中で事務を進めているのではないかという御懸念かと思いますが、そのようなことが生じないようにしたいと思います。

ハードの整備というのは、当然ソフト面で進めているところと一体となってすることが大事になります。今ほど御指摘のあったところにつきましては、保護者の皆さんを含め御覧になった方が、市は「こういうことに備えて整備をしているんだな」という、タブレットの使用が想定される場面が伝わるような表現にまとめさせていただきたいと思います。

(雲尾委員長)

校内LANの整備について、特別教室だけでなく体育館でもタブレットを使うと思いますので、校内LANの整備をどこまでするかの検討が必要だと思います。

また、第１指標では３クラスに１クラス分のタブレットの配備率を指標に設定していたことから、１人１台の端末を整備したということは300%とした方がよいと思います。また、来年度以降は新たな指標を設定する必要があると思いますが、どのようなことをお考えかお聞かせ願えればと思います。

(野水教育総務課長)

ただいま委員長御指摘のとおり、配備ということで捉えれば、ここが100%に達した時点で別の指標を設定する必要があります。来年度以降の指標つきましては、今ほど、各委員から御指摘のあった部分でもありますが、今すぐには答え持ち合わせておりませんが、ソフト面からのアプローチを環境整備という面でバックアップしていくという捉え方をしたときに、どういう指標の設定が必要なのかについて、現場を預かっていく教育センターや小中一貫教育推進課と一緒に検討していきたいと思います。また委員の皆様からも御意見を頂戴できればと思いますので、よろしくお願いいたします。

(雲尾委員長)

他に御意見等はよろしいでしょうか。

それでは、以上で議事を終了いたします。

---

(7) 次回教育事務点検評価委員会の日程について

野水教育総務課長から提案があり、委員長が諮り次のとおり決定した。

〔日時〕令和３年８月５日（木）午後１時 30 分

〔会場〕三条市役所栄庁舎２階応接室

---

(8) 閉会宣言　午後４時 27 分